

芸術鑑賞会に行ってきました

高校1年生・2年生は2月4日(水)に新国立劇場で、喜歌劇『こうもり』を鑑賞しました。オペラの本場、オーストリアからきたキャストも多く、迫力ある舞台でした。劇場側からは、生徒の皆さんの鑑賞態度が大変立派であったとの言葉もいただきました。

行事ノートから芸術鑑賞会の感想をご紹介します。



「こうもり」は、私が所属する吹奏楽部で昨年演奏したということもあり、特に思い入れのある曲だったので、プロの方の生演奏を聴くことができうれしかったです。曲自体は軽快なものが多いため、聴衆を楽しませてくれますが、演奏した側の経験では、ハイテンポであり休みがないので相当苦労したと思います。それでもやはり流石だなと思いつつ、今後の演奏の参考にさせていただきました。また、「この曲はどんな気持ち表現していたのか」をしっかりと理解することができました。オペラのオーケストラは縁の下の力持ち的な存在で、オペラの物語に上手く溶け込んでいると感じました。今回私が特に感動したのは、世界観がはっきりしていたことです。私はオペラグラスを持って行ったのですが、表情や衣装、セットなど細部までこだわっていることが分かりました。

オペラというと、堅苦しいイメージがあったのですが、喜歌劇ということもあり、笑いの要素が感じられて飽きずに見ることができました。また、拍手が終わってから演奏を始めるところから、客への配慮が感じられました。老後になったらオペラを趣味にするのもいいかな、と思いました。次にこの曲を演奏する時は、もっとうまく吹けそうな気がします。

1A T.C.さん

私は、今日の芸術鑑賞会でオペラに対するイメージが大きく変わった。今までテレビの音楽番組でしかオペラを観たことがなく、オペラは歌がメインであり物語は後からついてくるようなものだと思い込んできたが、実際はミュージカルや演劇、音楽映画とほとんど同じ感覚で楽しむことができた。

まずは前奏曲。会場が暗くなり大好きな『こうもり』のメロディーが聞こえてきた。音楽が大好きな私は、ポルカやワルツを聴いただけで心が舞い、つい体をゆすってしまう。事前勉強会であらずしは知っており、曲も知っていたが、これからはじまる長い長い物語を早く観たい気持ちでいっぱい非常にわくわくした。

幕が開き、演技がはじまると、私は笑い無しでは観ていられなかった。美しいメロディーや歌声のはずなのに歌詞の内容が笑いの要素にあふれている。そして、滑稽な言い争いをしてオーバーな動作をしていても、歌手たちの歌声は美しいハーモニーになっていた。普通の演奏会ならば「素敵なメロディだな…」と感動するはずの場所でも、コメディを観て楽しむような感覚になっていたのが自分でも意外だった。そして、何とも面白かったのは、セリフの中に沢山登場する日本語のジョークである。小間使いに日本の料理を出すよう言いつけたり、刑務所の中でキザな歌を歌ってばかりいるアルフレードに焼酎で酔っぱらったフロッシュが答えるシーンはおかしすぎて非常に鮮明に覚えている。またアルフレードが他のオペラの曲をアドリブで歌っていたことが更におもしろかった。

しかし、やはり一番心に残ったのは舞踏会のシーンである。豪華なセットにきらびやかな照明、楽しそうに舞うバレエダンサーのカップルの中で響き渡る歌声は滑稽なシーンの何倍も魅力的であり、第三幕に移ってしまうのが非常に名残惜しかった。

美しく心が躍り出すようなシーンもあれば、思わず笑い出してしまうシーンもあり、メリハリがあって三時間もの長い間見飽きることなく楽しむことができた。次は、喜歌劇だけでなく、イタリア語の悲しく切ない内容のものも観てみたいと思う。

1 B T.R.さん

今年の芸術鑑賞会は特別な豪華版らしいとうわさで聞いたときはどんなものを観ることができるのだろう、とワクワクしていましたがオペラだと知った時は驚き、またさらに楽しみになりました。オペラを見に行ったことはなかったのですが、一度はどんなものなのか知りたいとはずっと前から思っていたので、今回このような機会が設けられて、大変うれしかったです。

また『こうもり』の序曲は以前ジュニアオーケストラに所属していた頃に弾いたことがあったので、それが実際の、プロのものを見られたのはよかったです。残念ながら、くじ引きではずれ続けD席でしたが、3階席でも迫力が伝わってきて感動しました。

第一幕では主人公のアイゼンシュタインが友人のファルケ博士に説得されて夜のパーティーに行くことになることがメインでした。その小間使いもなんとかアイゼンシュタインの妻のロザリンデを説得しお暇をいただいたり、ロザリンデの恋人アルフレッドがやって来てはすぐに刑務所に連れて行かれ、と忙しい場面でした。第二幕は夜のパーティーの様子で、大変豪華なものでした。ここでは、アイゼンシュタインとアデーレ、ロザリンデの意外な出会いがあったり、華麗なダンスがあったりと見所もたくさんでした。第三幕は刑務所で、アイゼンシュタインが弁護士の格好をしてアルフレッドとロザリンデと対面する時の場面で、ついにネタばらしがあったところです。一番驚かされたのは、観客にとっては偶然で、ファルケの企みではないように思えた部分もすべて仕組まれていたことです。お客さんもたまされる所もおもしろかったです。

また、日本の観客向けに、日本語のセリフやジョークが多く、なじみのないオペラを誰でも楽しめるような工夫がたくさんなされているんだなと感じました。またオーケストラの演奏と歌とがぴったりで、指揮者もすごい仕事をしていることを感じました。

2 C S.N.さん

今年の芸術鑑賞会は「こうもり」というオペラを観ました。

私はオペラを観たことがなく、とても楽しみでした。会場に入り、舞台の下でオーケストラの方々が準備をされていて、演劇の舞台とは違っているのだな、と感じとても新鮮でした。

幕が上がり、音楽から始まり、中の幕も上がった後、見えた舞台に驚きました。建物や奥にあった木などとても綺麗で、照明があたっているのか、木の葉が建物にうつし出されていて、感動しました。劇の方では、全くわからない言語であるのに、感情が伝わってきて、また所々にある日本語のネタが面白くとても楽しく観ることができました。

私が特に感動したのは、舞踏会に切り替わるところです。それまであった段や布、大道具がいっせいに片づけられて、舞台が奥まで広がり、本当に驚いて、大きな劇場はやはり違うのだなと感じました。

オペラを観るのは初めてでしたが、とても楽しく観劇することができました。字幕やオーケストラがあり、演劇だけであるものとしては雰囲気はまったく違うと感じました。また機会があれば観に行きたいです。

2 F R.O.さん

